

今月の

ピッコアッコ[®] 生薬

10月 しゃくやく 芍薬

胃の弱い人には、向かないとも...



展示番号 No.26

今月は、芍薬(シャクヤク)です。タッチパネルモニターもご覧下さい。

使用部分 (つかうところ)

根



径が1~3cmで、立てじわが入っています。

国内では、北海道や長野、群馬などで取れます。

産地 (とれる所)

中国、韓国等



用途 (どんな時に使う)

鎮痛、けいれんをしずめる

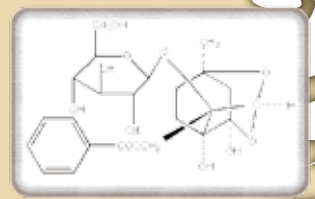
どんな植物

東アジア原産の多年草植物です。高さが約50~60cmになり、地中では、割合まっすぐ伸びる根を持っています。夏の初めに、茎の先端に直径約15~20cmの白や赤の大きな花を咲かせます。その花の美しさゆえ、美人を例えるときの「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿はゆりの花」などの言葉として使われてもいます。もともとは、芍薬^{ポタン}と書かれているように、古代から薬としての利用が多かったのですが、時代がたつにつれ、観賞用の植物として、栽培されることが多くなってきました。薬としての利用例では、漢方として、葛根湯、小青竜湯などカゼや、アレルギー性鼻炎などの薬に含まれています。

化学成分：ペオニフロリン (paeoniflorin)

モノテルペン配糖体の1つです。テルペンとは、炭素と水素がC₅H₈であるイソプレンを骨格として持つ化合物の集まりです。その集まった数によってモノテルペン(C₁₀)、セスキテルペン(C₁₅)、ジテルペン(C₂₀)などと呼ばれるようになります。

また、配糖体とは、オリゴ糖と糖以外の物が結合している物質です。このモノテルペン配糖体は、植物が作る精油の主成分となっています。このペオフロニンには、痛みやけいれんを弱めたり、血圧を下げるなどの働きがあるとされています。



ペオニフロリン
C₂₃H₂₈O₁₁

来月は、No.8の括楼根(カロコン)を取り上げます。

※実際の医薬品としての効能などについては、薬剤師や、医師にご相談ください。